



2013.10.10
第152号

発行

村会 町議 市協 県委 島育 福教
会会 支支 津支 津支 津支 津支
会会 会会 会会 会会 会会 会会
連 北 北 北 北 北 北
耶 耶 耶 耶 耶 耶 耶
両 両 両 両 両 両 両

編集

福 島 県 教 育 庁
会 津 教 育 事 務 所

編集協力

小・中学校長会

学びを保障する視点



会津教育事務所
業務次長 星 克 一

先日、一泊二日で奈良に行ってきました。高校時代に修学旅行で行き、教員になってからも修学旅行の引率で幾度となく訪れていましたが、今回は家族との旅でした。法隆寺、中宮寺、興福寺、東大寺、薬師寺、唐招提寺等々で様々な建築様式や仏像と出逢い、日本古来のすばらしい技術と美観をもった建造物、豊かな表情に満ちた仏像に魅入ってしまいました。「こんなに違っていったんだ。」高校時代や教員での修学旅行引率では味わえなかった驚きや満足感がありました。

た。時間をかけて見ることができたことや、見るときの自分自身の気持ちの違いがこんなにも新たな発見と驚きにつながっていることを改めて感じました。新発見と再発見の連続の二日間でした。なぜこれだけ心が揺り動かされたのかを考えたとき、三つのことにたどり着きました。まず何といたって「興味・関心のもてる対象」であったこと、そして「感じる力」感性、さらに「感じるための土台」既習の知識や先行体験」が高まっていたことです。そして、これらのことは、私たちが日々行っている授業づく

くりで大切にしたい点にとでもよく似ていることを実感しました。すなわち、子どもにとって魅力的な教材であること、本時の目標を達成するために見通しをもって学習できること、目標達成に必要なレディネスを身に付けていること。これらの条件を満たすことで、子どもは自ずと学んでいくことが期待できます。

ここで大切なのは、子どもへの学びを支える教師が、どのような準備をし、関わっていくのかを、PDCAサイクルにより学校全体で明らかにしていくことだと考えます。全国学力・学習状況調査の結果や日々の授業実践の成果と課題等をもとに、全員で手だてを共有し、今後の授業改善に結びつけてほしいと思います。

実りの秋、校長先生のリーダーシップのもと、さらに充実した教育活動を展開することを目指してまいります。

前期の所長(管理)訪問から

前期は、小学校36校、中学校21校を訪問いたしました。

各学校とも、校長先生方の明確な経営ビジョンに基き、組織を生かした学校経営が進められており、多くの教室で生き生きとした児童生徒・教職員の姿を見ることができました。

校長先生方が教職員一人一人に積極的に関わり、目標や実践事項を共有し、組織的に計画―実践―評価―改善に取り組んでいる学校は、成果が顕著に現れているようです。教職員目標管理制度を有効に機能させて、教職員の職務遂行能力の向上や学校組織の強化につなげている学校も数多く見られました。中間面談や教室訪問などを通して、目標の達成状況を確認し、修正や補充策を話し合っ

て、達成に向けての取組を充実させてほしいと思います。また、事故や不祥事の未然防止に関する自己目標を申告させている学校も多くありました。服務規律の保持の面からも、効果が大きいものと考えます。

学校事故や不祥事防止については、各学校で校内服務倫理委員会の工夫や風通しのよい職場づくりなどにも、懸命に取り組んでいました。しかし、夏休み中に、一学期の後半に発生した体罰が2件報告されました。体罰は県としてその根絶をめざしている不祥事であり、根絶に向けた取組の強化を再度お願いいたします。

その他の課題としては、特別な支援を要する児童生徒の支援体制の確立、加配や補正のより有効な活用、幼・小・中の有機的な連携などがあげられます。これまでの取組を再点検し、課題解決に向けて実効ある取組をお願いします。

再点検し、課題解決に向けて実効ある取組をお願いします。

総務社会教育課だより

1 地域子育てサポートチーム養成研修（地区別研修A）

- (1) 日時 平成25年8月24日(土)
- (2) 会場 ユースピアゆがわ
- (3) 内容 講義、演習
- (4) 研修の様子



真剣に耳を傾ける参加者

- 講義①会津大学短期大学部 社会福祉学科 准教授 利根川智子氏
「幼児期から青年期の心の発達とその問題・支援」
・発達段階とその特徴や課題について各段階ごとに詳しく説明していただきました。
- 講義・演習①桜の聖母短期大学 生活科学科 教授 西内みなみ氏
「家庭の役割と子どもとのかかわり」
・自己実現パラダイム、自信貯金、あきらめないことの大切さ等について演習を交えながら楽しく学ぶことができました。



西内みなみ氏



分科会の話し合い

2 地域家庭教育推進会津ブロックセミナー

- (1) 日時 平成25年8月31日(土)
- (2) 会場 会津大学
- (3) 内容 問題提起、分科会、講演
- (4) 研修の様子



田澤雄作氏

- 問題提起「学習習慣の定着と生活習慣の向上に向けて」学校教育課
「子どもの生活習慣等における現状と課題」社会教育課
- 分科会・生活習慣向上のための学校、PTA、地域の連携
・ノーメディアデーの現状と課題
- 講演 仙台医療センター 小児科医師 田澤雄作氏
「世界一寂しい・自分に自信のない日本の少年」
・過剰な映像メディア漬けが子どもの脳に与える影響について、医学的立場から具体的に説明していただきました。

1 学期を振り返って

学校教育課

会津教育事務所経営・運営ビジョンの4つの重点事項について、1学期末に行ったアンケートの結果を踏まえ、2学期以降の努力すべき点をまとめました。

1 子どもたちの豊かなこころの育成

- 全教育活動の道德教育に関わる側面を明確にし、全職員で共通理解を図り、それと関連付けた道德の授業を計画的に実施する。
- 昨年度に比べ、不登校児童生徒が増加傾向にあるので、わかる授業づくり、自己有用感を高める集団づくり、教育相談活動の充実をさらに推進して、新たな不登校児童生徒を生まないようにする。

2 生き抜く力を支える「確かな学力」の育成

- 学力向上グランドデザインをもとに、共通実践事項の徹底を図る。さらに、定着確認シートを活用したショートスパンのPDCAサイクルを継続的に実施する。
- 「わかる・できる授業」のための具体的な実践

事項を明確にし、継続的に取り組む。

- 授業ごとのねらいとまとめの整合性を図り、確実に評価を行う。

3 子どもたちの健やかな体の育成

- 自校の「体力向上推進計画」「食育年間指導計画」等を全職員で共有し、その確実な実践と、実態に応じた計画の見直しを進める。また、学校保健委員会で、自校の課題について協議するなど、健康・安全について組織的な対応を行う。

4 「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進

- 特別な支援を要する児童生徒に対する具体的な支援方法への関心が高まり、地域教育相談推進事業の活用も多い。特別支援学校のセンター的機能や担当指導主事を活用するなど、校内の研修会等を積極的に推進する。
- * 会津教育事務所ホームページ「教科の部屋」の活用を進める。
- * 放射線に関する授業を全学級で実施する。



「ならでは」の教育行政

湯川村教育委員会教育長 星 三千男

平成21年度の北会校長会広報に「道の駅を遊ぶ」という題で随想を書いた。当時、

県内15の道の駅全てを制覇し、「採れたて野菜など地場産品が誇らしげに並び、その土地の魅力を最大限に発信しようとする地域の熱い思いが伝わってくる。」などと紹介した。

現在、県内には26の道の駅がある。震災で運営していない所を除き、改めて全て訪れてみた。湯川村と会津坂下町も共同で阿賀川と国道49号が交差する宮古橋南側に26年度のオープンを目指して建設中だ。2町村が共同で行うことや「人の駅、川の駅」も併設することなど、全国的にみても例がないという。

湯川村では、このほか、長年の懸案であった役場新庁舎建設や村体育館東側に定住促進住宅地の造成が始まるなど、地域振興を加速させて

いる。

これらの地域活性化を進める村づくりの一翼を担うのが教育行政である。

「村で産んでよかった、村で育ててよかった、村に通わせてよかった」と実感できる子育て支援と学校教育の充実、「村に生まれてよかった、村に住んでよかった」と自然と文化を体感できる社会教育の推進や集落の絆と健康づくり・仲間づくり・生きがいづくりを育む生涯学習の拡充など、夢を持って進める教育行政は楽しい。

これまで先人が培ってきた「教育の村」を踏襲しつつ、大きく生まれ変わる村づくりと歩調を合わせ、「福島県で一番小さい村、山のない村、会津のへそにある村、国宝が息づく村」など、村の良さ、村の誇りを核にした「ならでは」の教育行政をわくわくしながら模索している。

27番目のオープンを心待ちにしながら。

我がまちからの情報発信

喜多方市人づくりの指針

喜多方市では人材の育成、青少年の健全育成などを目的とし「喜多方市人づくりの指針」を平成23年に策定しました。

喜多方市生まれの瓜生岩子刀自、蓮沼門三氏ら先人の教えや藤樹学を尊重し、また、本市の



置かれた風土や文化、歴史等を踏まえ個性豊かな人間の創造を期待し、家庭や地域社会、学校そして行政など関係機関においてその実現を目指すことを目的としております。

指針の名称を～未来を拓

喜多方市教育委員会

く喜多方人～と称し、その実現を目指す5つの努力目標とし、家庭、学校、地域社会、行政や関係機関に期待することを盛り込みました。

また、児童生徒向けの指針としては、人づくりの指針を受けて「なかよく たくましく 生きる」を作り、毎日の生活で目指す姿を示しています。

青少年をめぐる問題は、社会全体の反映であり、青少年だけを対象とした対策では解決できる問題ではありません。

家庭、学校、地域が一体となって共通の指針のもとに、青少年の心を育てていくことが必要不可欠であり、喜多方市ではこの指針を重要な事業に位置付け、市内各施設に啓発パネルを設置し、また人づくりの指針に関する講演会への講師派遣や、啓発資料を用いたPRなど、広く市民へ周知を図る取組を展開しています。

また、この指針は、喜多方市の人づくりの指針として策定したのですが、その理念は地域や世代を越えて全ての人々に共通するものと確信しています。是非皆様の日々の暮らしにも生かしていただきますようお願いいたします。

作品と指導

工作

『すてきなペーパーショップ』



会津若松市立一箕小学校

4年 平野 大葵

本題材は、友達と交換して集めた多彩な紙を使い、その特徴を生かしながらカラーージュして絵に表す活動です。

本作品は、生き物が好きな児童が、交換した紙を使って「ザリガニ」を表しました。ザリガニの鋭いはさみを丁寧に作成するとともに、川底や背景を工夫して作成することができました。

指導者 奥 洋和

絵画

『自画像』

北塩原村立第一中学校
3年 佐藤 光将



自分らしさとは何か。今の自分を素直に見つめ、自身を正面から見据えさせました。まずは生徒の写真を撮影し、自己と対峙する。鉛筆を用いることで細やかな表現ができるようにしました。最後に定着剤をスプレーし完成させました。

指導者 馬場 尚

習字

『大地』

昭和村立昭和中学校
1年 舟木 博愛



楷書の基本、特にはねや払い部分は練習をして筆使いを確かめさせました。

中心線と字形が整ったら、勢いよく大きく書くことを意識させて何回も練習しました。のびのびと元気な作品になりました。

指導者 杉山 雅孝

全校児童41名は、のびのびと素直で活力にあふれ、めあてに向かって精一杯努力する子どもたちである。町の重点目標「自分に自信を、町に誇りを持てる子ども」の育成へ向けて、子どもたち一人一人の可能性を伸ばし、逞しく生きる力をつけるために何が必要かを見極め、具体的な方策を持って一歩一歩着実に実践を積み重ねていきたい。

二度目の磐梯青少年交流の家勤務は、住み慣れた我が家に戻ってきたような感覚で四ヶ月が過ぎました。先日、野外炊事の竈の火が熾かないで少し待たせて「煽がないで少し待たせてらん」と話し（火種の温度が上がるまで煽がないのが火熾しのコツです）、一緒に見ていると程なく竈に炎があがりました。「火熾し」ばかりでなく、様々な体験活動を通して子どもたちが多くのことを学ぶことを社会全体で推進するため、所属する機構では「体験の風をおこそう」運動を積極的にを行っています。

今後は、私自身も地域の一員として生徒の教育に全力で取り組み、共に多くのことを学び成長することで、日々自分自身を磨いていきたいと思えます。



金山町立
金山小学校
校長 山浦京子



独立行政法人
国立青少年教育振興機構
国立磐梯青少年交流の家
次長 小林 稔



喜多方市立
塩川中学校
教諭 平 千絵

一歩一歩着実に

私の抱負

体験の風をおこそう

『温かな心』とともに